

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 実施日 平成 29 年 4 月 18 日 (火)

(2) 対 象

- ・小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年の全児童生徒
- ・特別支援学校小学部第 6 学年及び中学部第 3 学年の該当児童生徒

(3) 調査の内容

- ・教科に関する調査 (国語、算数・数学)
- ・生活環境や学習環境等に関する質問紙調査 (児童生徒に対する調査 (以下、「児童生徒質問紙調査」という。)) 及び学校に対する調査 (以下、「学校質問紙調査」という。))

(4) 調査を実施した学校・児童生徒数

- ・小学校：356校 (99.4%)、児童数：約 15,500人
- ・中学校：157校 (99.4%)、生徒数：約 16,300人

※学校数には、義務教育学校 (前期/後期課程)、県立特別支援学校を含む。

※県立特別支援学校の小学部 2 校及び中学部 1 校については、対象児童生徒の体調不良等により未実施。

2 教科に関する調査の結果の概要

(1) 平均正答率

8 教科中 7 教科で全国の平均正答率を下回りました。中学校では数学 A で全国
の平均正答率を上回りました。

【小学校】 4 教科全てにおいて全国の平均正答率を下回りました。

※ [H28] 2 教科 (国語 B、算数 A) において全国の平均正答率を上回る。

| 国語 A | 国語 B | 算数 A | 算数 B | 4 教科平均 |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 73.6(-1.2) | 57.0(-0.5) | 77.4(-1.2) | 44.6(-1.3) | 63.2(-1.0) |

【中学校】 1 教科 (数学 A) において全国の平均正答率を上回りました。

※ [H28] 1 教科 (数学 A) において全国の平均正答率と同水準。

| 国語 A | 国語 B | 数学 A | 数学 B | 4 教科平均 |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 76.9(-0.5) | 70.7(-1.5) | 65.3(+0.7) | 47.3(-0.8) | 65.1(-0.5) |

※ () の数値は、全国の平均正答率との差を示す。

(2) 過去 4 年間の平均正答率等の推移 (全国の平均正答率との差)

中学校においては、平均正答率が昨年度と比べて全教科で全国との差が改善され
るとともに、小学校 6 年生時と比べても全教科で全国との差が大きく改善しま
した。

【小学校】 昨年度から 3 教科で全国との差が広がりました。(下降)

【中学校】 昨年度から全ての教科で差が改善しました。

【小学校】

| | H26 | H27 | H28 | H29 | 差 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 国語A | -3.3 | -2.0 | -1.2 | -1.2 | ±0 |
| 国語B | -3.0 | -0.1 | 0.3 | -0.5 | -0.8 |
| 算数A | -1.9 | -0.4 | 0.7 | -1.2 | -1.9 |
| 算数B | -2.2 | -0.9 | -0.1 | -1.3 | -1.2 |

【中学校】

| | H26 | H27 | H28 | H29 | 差 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 国語A | -1.4 | -0.8 | -1.2 | -0.5 | +0.7 |
| 国語B | -2.0 | -1.5 | -2.2 | -1.5 | +0.7 |
| 数学A | -0.3 | -0.1 | 0.0 | +0.7 | +0.7 |
| 数学B | -1.5 | -1.0 | -0.9 | -0.8 | +0.1 |

〈参考〉同一児童生徒 (小6→中3) の伸び

| | H26 | H29 | 差 |
|-----|------|------|------|
| 国語A | -3.3 | -0.5 | +2.8 |
| 国語B | -3.0 | -1.5 | +1.5 |
| 算数A | -1.9 | +0.7 | +2.6 |
| 算数B | -2.2 | -0.8 | +1.4 |

※各数値は、全国の平均正答率との差を示す。なお、差の数値は、H29-H28(H26)を示す。

(3) 平均無解答率

8教科中6教科(小学校国語A、算数A及び中学校全教科)で全国の平均無解答率を下回りました(全国よりも良好な水準)。

【小学校】2教科(国語A、算数A)において全国の平均無解答率を下回り、国語Aについては、これまでで一番改善が図られました。

| 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 4教科平均 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 2.26(-0.51) | 4.32(+0.01) | 1.44(-0.15) | 6.64(+0.22) | 3.35(-0.14) |

【中学校】4教科全てにおいて全国の平均無解答率を下回るとともに、これまでで一番改善が図られました。

| 国語A | 国語B | 数学A | 数学B | 4教科平均 |
|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 2.01(-0.42) | 3.72(-0.08) | 5.39(-0.86) | 10.95(-0.76) | 4.96(-0.61) |

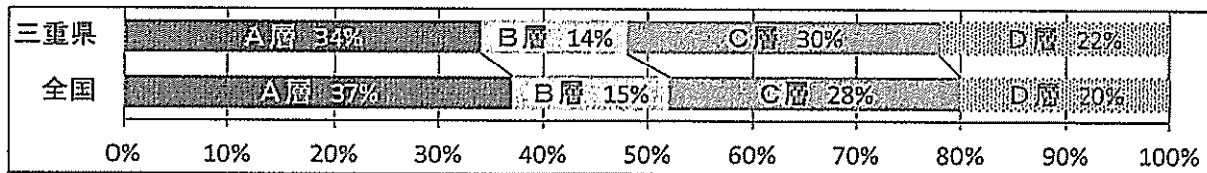
※ () の数値は、全国の平均無解答率との差を示す。

(4) 平成28年度と平成29年度の学力層比較

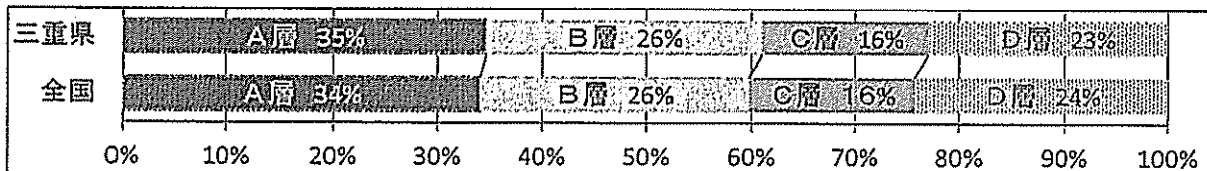
【小学校】算数Aで、昨年度A・B層の割合が6割を超えていましたが、本年度5割を下回りました。

(算数A)

平成29年度 A層(14~15問) B層(13問) C層(10~12問) D層(0~9問)

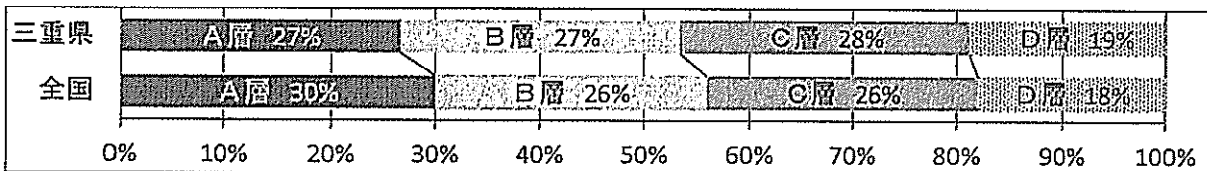


平成28年度 A層(15~16問) B層(13~14問) C層(11~12問) D層(0~10問)

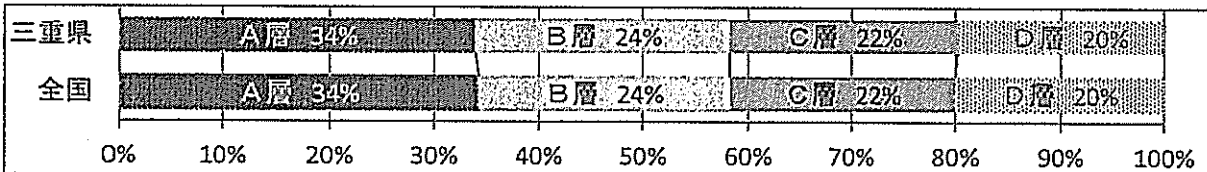


(算数B)

平成29年度 A層(7~11問) B層(5~6問) C層(3~4問) D層(0~2問)

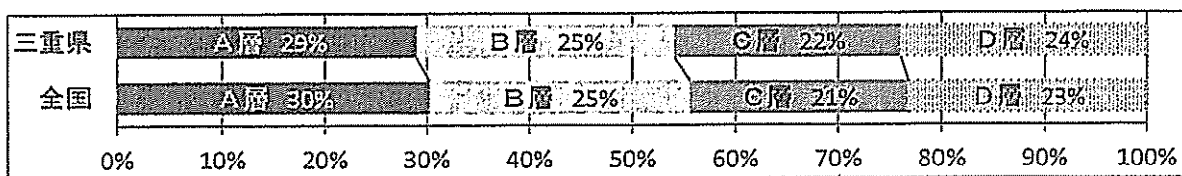


平成28年度 A層(8~13問) B層(6~7問) C層(4~5問) D層(0~3問)

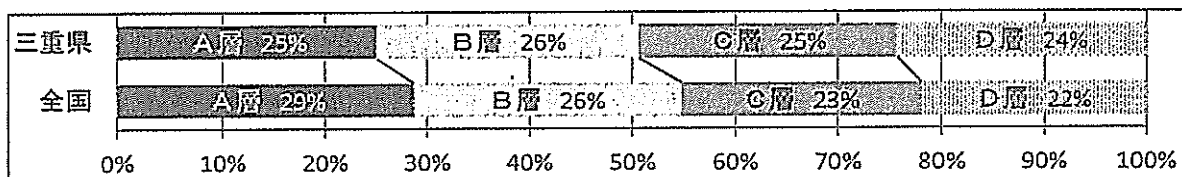


【中学校】国語A、数学Aで、A・B層の割合が全国との比較において改善しました。
(国語A)

平成29年度 A層(29～32問) B層(26～28問) C層(22～25問) D層(0～21問)

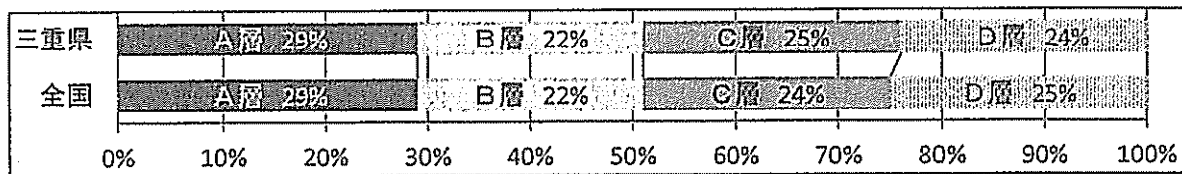


平成28年度 A層(29～33問) B層(26～28問) C層(22～25問) D層(0～21問)

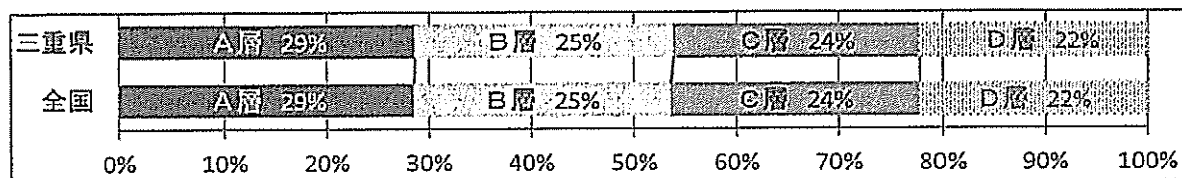


(数学A)

平成29年度 A層(30～36問) B層(25～29問) C層(18～24問) D層(0～17問)



平成28年度 A層(29～36問) B層(23～28問) C層(16～22問) D層(0～15問)



※A・B層とは、全国の児童生徒を正答数の多い順に、人数割合により25%刻みで4層分けを行ったときの上位2層をいう。

(5) 領域別経年比較

【小学校】ほぼ全ての領域で下降傾向にあり、特に、国語A「話すこと・聞くこと」、算数A「量と測定」「数量関係」、算数B「量と測定」「図形」は下降が顕著です。

【中学校】ほぼ全ての領域で改善傾向にあります。

(6) 課題の見られた設問(小学校)

- ・国語では文章を読み取る力や漢字を正しく書くことに課題があります。
- ・算数では割合等に関する知識の定着に課題があります。

【国語】・漢字を正しく書く(参加たいしょう): 37.0 (-5.0)

・文章の内容を読み取る(報告の説明として適切なものを選択): 66.0 (-3.2)

【算数】・商を分数で表す(5÷9の商): 64.3 (-4.9)

・与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉える: 10.9 (-2.3)

※各数値は、設問別正答率を示す。()の数値は、全国の設問別正答率との差を示す。

3 児童生徒・学校質問紙調査の結果の概要

(1) 学校の組織的な取組

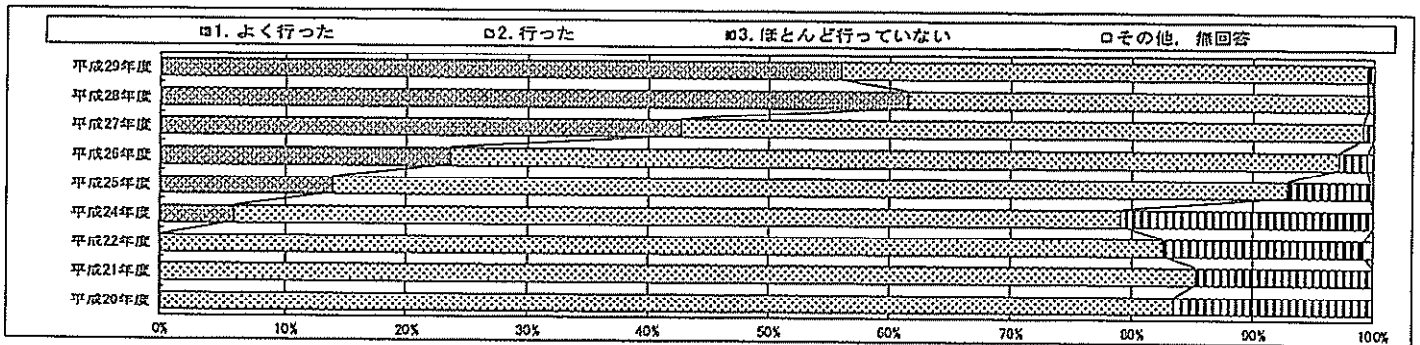
①小学校において「よく行った」と回答した割合が減少した取組

小学校では、全国学調を活用して改善に結びつける取組、子どもの考えが深まるような授業展開、家庭学習の保護者への働きかけの取組等について、「よく行った」と回答している割合が減少しています。

質問番号 (55) 学調結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有した

「よく行った」と回答した割合の昨年度との差/小：-5.7 中：-2.1

| 質問番号 | 質問事項 | | | | | | | | | |
|--------|---|------|------|---|---|---|---|---|---|---------|
| (55) | 平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか（具体的な教育指導の改善） | | | | | | | | | |
| 選択肢 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | その他、無回答 |
| 平成29年度 | 55.9 | 43.5 | 0.3 | | | | | | | 0.3 |
| 平成28年度 | 61.6 | 37.9 | 0.5 | | | | | | | 0.0 |
| 平成27年度 | 42.8 | 56.4 | 0.8 | | | | | | | 0.0 |
| 平成26年度 | 23.6 | 73.5 | 2.4 | | | | | | | 0.5 |
| 平成25年度 | 13.8 | 79.0 | 6.9 | | | | | | | 0.3 |
| 平成24年度 | 6.1 | 73.0 | 20.9 | | | | | | | 0.0 |
| 平成22年度 | | 82.5 | 16.7 | | | | | | | 0.8 |
| 平成21年度 | | 85.1 | 14.9 | | | | | | | 0.0 |
| 平成20年度 | | 83.4 | 16.6 | | | | | | | 0.0 |



選択肢1（「よく行った」）の割合に着目すると、これまで改善傾向にあったものが下降に転じました。

同様の状況が下記の学校質問紙調査の結果にも表れています。

| 番号 (小) | 質問内容 | 昨年度との差 | |
|-----------|---|--------|------|
| | | 小学校 | 中学校 |
| 56 | 分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した | -5.4 | -1.5 |
| 94 | 保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った | -4.4 | +3.0 |
| 36 | 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした | -3.3 | +2.3 |
| 19 | 自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発表や発言を行うことができています | -3.1 | +1.3 |
| 42 | 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した | -2.8 | -0.4 |
| 15 | 話し合い活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができています | -2.6 | +4.6 |
| 17 | 話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています | -2.5 | +1.4 |
| 41 | 自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた | -0.5 | -4.9 |

②小学校における学校と児童との意識の差

これまで学校の組織的な取組の一つとして行ってきた「目標の提示」「振り返る活動の設定」については、一定の改善が見られますが、「振り返る活動の設定」については乖離が広がりました。

一方、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導については、これまで改善にあったものが下降に転じました。

ア 目標(めあて・ねらい)の提示

| 小学校 | H26 | H27 | H28 | H29 |
|-------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 児童質問紙 | 75.7(-6.3) | 83.0(-3.3) | 88.8(1.2) | 89.4(1.2) |
| 学校質問紙 | 91.3(-5.6) | 97.8(-0.3) | 98.7(-0.1) | 98.8(-0.2) |
| 乖離 | -15.6<-14.9> | -14.8<-11.8> | -9.9<-11.2> | -9.4<-10.8> |

イ 振り返る活動の設定

| 小学校 | H26 | H27 | H28 | H29 |
|-------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 児童質問紙 | 67.1(-4.8) | 71.4(-3.9) | 76.9(0.8) | 78.8(2.6) |
| 学校質問紙 | 76.3(-15.3) | 89.9(-4.0) | 93.0(-1.9) | 95.3(-0.1) |
| 乖離 | -9.2<-19.7> | -18.5<-18.6> | -16.1<-18.8> | -16.5<-19.2> |

ウ 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動 ※H27年度からの新規調査項目

| 小学校 | H27 | H28 | H29 |
|-------|------------|------------|------------|
| 児童質問紙 | 71.0(-3.2) | 75.0(-0.7) | 72.8(-2.3) |
| 学校質問紙 | 67.1(-5.9) | 77.4(-2.7) | 75.6(-6.7) |
| 乖離 | 3.9<1.2> | -2.4<-4.4> | -2.8<-7.2> |

※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

※「乖離」の数値は、児童生徒質問紙-学校質問紙。なお、< >の数値は、全国の乖離の値を示す。

③校長の見回りの状況

週に2回以上、授業の見回りを行っている小学校の割合はこれまで改善傾向にありましたが、本年度は昨年度に比べると割合が減少しています。中学校の割合は継続的に改善が見られ、全国平均を上回っています。

校長の授業の見回り(週に2回以上)

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 学校質問紙(小) | 84.5(-7.1) | 95.4(2.3) | 98.2(4.0) | 96.6(2.1) |
| 学校質問紙(中) | 69.2(-10.1) | 81.4(0.0) | 88.1(5.5) | 88.5(5.0) |

※各数値は、「週に2回以上見て回っている」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

④改善が見られた学校における主な取組

※ 平成 26 年度から平成 29 年度までの経年で、課題の改善が見られた学校と、課題の改善が見られなかった学校との学校質問紙の肯定的な回答を比較

【小学校】

| 順 | 改善が見られた学校で、改善が見られなかった学校より取り組まれている活動（上位順） | |
|---|--|-------|
| 1 | 話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる | +41.7 |
| 2 | 自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる | +36.1 |
| 3 | 自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた | +33.3 |
| 4 | 自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表ができています | +25.0 |
| 4 | 図書館資料を活用した授業を計画的に行った | +25.0 |
| 4 | 自ら課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている | +25.0 |
| 7 | 児童は礼儀正しい | +22.2 |
| 7 | 学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる | +22.2 |

【中学校】

| 順 | 改善が見られた学校で、改善が見られなかった学校より取り組まれている活動（上位順） | |
|----|--|-------|
| 1 | 自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表ができています | +52.2 |
| 2 | 教科や朝の会などで、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った | +35.3 |
| 3 | 自ら課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている | +34.6 |
| 4 | 自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる | +28.7 |
| 4 | 自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた | +28.7 |
| 6 | 長期休業日を利用した補充的な学習のサポートを実施した | +26.5 |
| 7 | 学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる | +23.5 |
| 7 | 指導計画の作成で、横断的な視点で、その目標達成に必要な教育内容を組織的に配列している | +23.5 |
| 7 | 授業や課外活動での地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した | +23.5 |
| 7 | 教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している | +23.5 |
| 11 | 話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる | +22.8 |
| 11 | 指導計画の作成で、必要な人的・物的資源等を、外部の資源を含めて活用しながら組み合わせている | +22.8 |

(2) 子どもたちの家庭における生活習慣・学習習慣・読書習慣

①基本的な生活習慣等

テレビ・テレビゲーム・スマホの通話やメール、インターネットの使用は、改善が見られません。

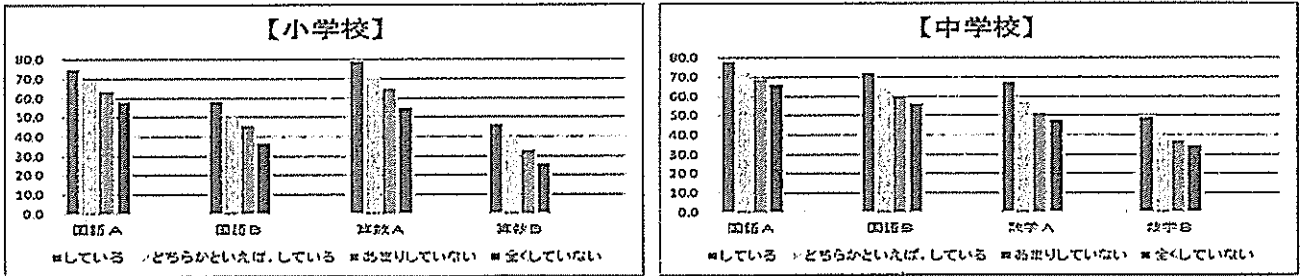
ア 朝食を毎日食べている、毎日同じぐらいの時刻に寝ている・起きている

平成 29 年度は小中学校ともに昨年度よりも肯定的な回答の割合が減り、小学校は、全国を下回っています。

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|------------|------------|-----------|------------|
| 児童質問紙(小) | 88.3(-0.4) | 88.3(-0.4) | 89.1(0.3) | 88.6(-0.2) |
| 生徒質問紙(中) | 86.9(0.3) | 86.8(-0.1) | 87.4(0.5) | 87.1(0.0) |

※各数値は、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じぐらいの時刻に寝ている」「毎日、同じぐらいの時刻に起きている」の肯定的回答割合の平均値を示す。() の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

【参考】「朝食を毎日食べている」と教科に関する調査の結果との関連



イ 平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用時間(「平日のテレビ等の視聴(3時間以上)」「平日のテレビゲームの使用(3時間以上)」)

小中学校ともに平成 28 年度までは継続的に改善が見られましたが、平成 29 年度は小中学校ともに昨年度よりも 3 時間以上使用している割合が増え、全国との差も広がっています。

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 児童質問紙(小) | 28.6(1.1) | 27.0(0.4) | 24.6(0.2) | 26.6(1.4) |
| 生徒質問紙(中) | 29.6(3.7) | 27.7(2.2) | 23.4(1.9) | 25.5(2.1) |

※各数値は、「平日のテレビ等の視聴(3時間以上)」「平日のテレビゲームの使用(3時間以上)」の回答割合の平均値を示す。() の数値は、全国の回答割合の平均値との差を示す。

ウ 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用時間(3時間以上)

中学校では、平成 28 年度までは継続的に改善が見られましたが、平成 29 年度は小中学校ともに昨年度よりも 3 時間以上使用している割合が増え、全国との差も広がっています。

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 児童質問紙(小) | 5.6(0.6) | 6.3(0.6) | 5.9(0.1) | 7.9(0.9) |
| 生徒質問紙(中) | 24.5(4.7) | 21.5(3.3) | 18.6(2.0) | 20.6(2.5) |

※各数値は、「3 時間以上使用している」の回答割合を示す。() の数値は、全国の回答割合との差を示す。

②家庭における学習習慣

- ・平日の学習時間は、小中学校ともに改善が見られません。
- ・休日の学習時間は、中学校において継続的に改善が見られます。なお、全国と比較すると、小中学校ともに依然として大きな差があります。

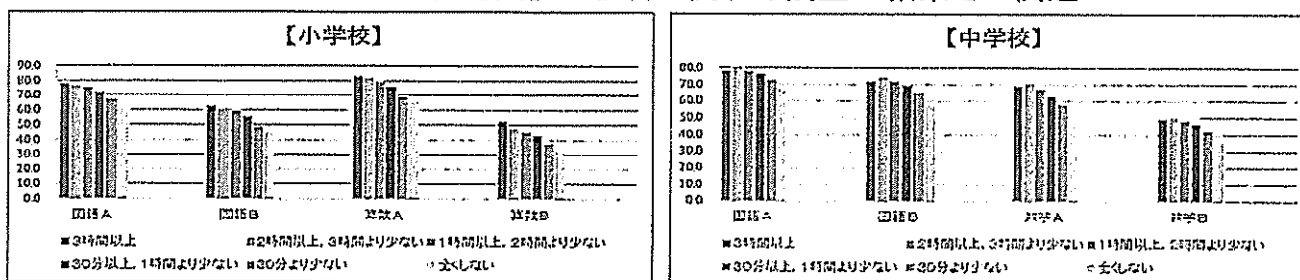
ア 平日の学習時間（1時間以上）

小中学校ともに全国との差が広がりました。（三重県の割合は改善。）

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|------------|------------|------------|------------|
| 児童質問紙(小) | 59.4(-2.6) | 58.4(-4.3) | 60.4(-2.1) | 61.6(-2.8) |
| 生徒質問紙(中) | 64.4(-3.5) | 66.5(-2.5) | 65.2(-2.7) | 66.5(-3.1) |

※各数値は、「1時間以上している」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

【参考】「平日の学習時間」と教科に関する調査の結果との関連



イ 休日の学習時間（1時間以上）

小学校は全国との差、三重県の割合ともに改善が見られません。中学校は全国との差、三重県の割合ともに改善が見られました。（なお、全国との差は、小中学校ともに、継続的に－7～－10ポイント程度差があります。）

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|-------------|-------------|------------|------------|
| 児童質問紙(小) | 46.9(-9.0) | 45.8(-10.9) | 49.0(-8.0) | 47.9(-9.4) |
| 生徒質問紙(中) | 57.4(-10.0) | 59.9(-8.8) | 59.8(-8.0) | 62.0(-7.4) |

※各数値は、「1時間以上している」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

③読書習慣（授業以外の読書時間（平日10分以上））

全国と比較すると、小中学校ともに差が広がりました。

小学校は全国との差、三重県の割合ともに改善が見られません。中学校は全国との差は広がっていますが、三重県の割合は改善が見られます。

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|------------|------------|------------|------------|
| 児童質問紙(小) | 62.5(-2.2) | 61.1(-3.1) | 62.4(-1.1) | 61.8(-1.5) |
| 生徒質問紙(中) | 50.7(-2.3) | 48.6(-3.6) | 46.4(-3.3) | 47.4(-3.7) |

※各数値は、「10分以上読んでいる」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

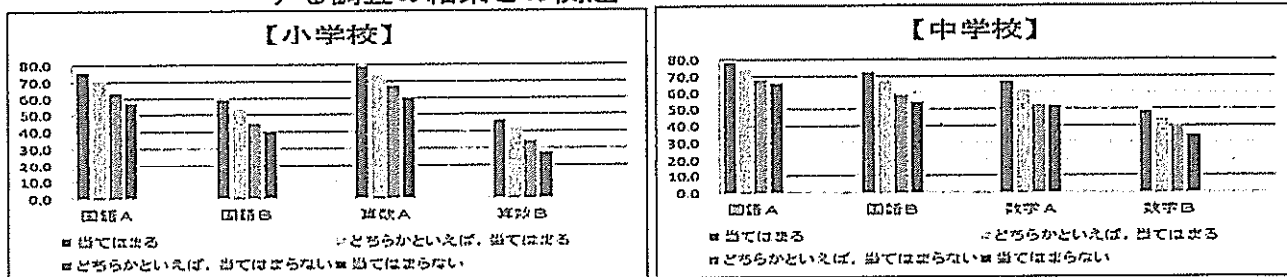
(3) 子どもたちの自尊感情・自己肯定感の状況

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分にはよいところがある」と肯定的に回答している子どもたちの割合は増えており、子どもの自尊感情が継続的に高まっています。

①ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 児童質問紙(小) | 94.6(0.2) | 94.5(0.0) | 94.9(0.5) | 95.1(0.3) |
| 生徒質問紙(中) | 94.6(0.7) | 95.1(0.9) | 95.0(0.7) | 95.5(0.8) |

【参考】「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と教科に関する調査の結果との関連



②難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 児童質問紙(小) | 75.4(0.3) | 76.6(0.2) | 77.6(1.5) | 78.1(0.7) |
| 生徒質問紙(中) | 69.5(1.5) | 69.7(0.9) | 70.8(1.2) | 73.2(2.2) |

③自分には、よいところがある

| | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----------|------------|------------|------------|------------|
| 児童質問紙(小) | 75.7(-0.4) | 75.1(-1.3) | 75.5(-0.8) | 77.4(-0.5) |
| 生徒質問紙(中) | 69.1(2.0) | 69.4(1.3) | 71.3(2.0) | 73.2(2.5) |

④先生はよいところを認めてくれる

| 小学校 | H26 | H27 | H28 | H29 |
|-------|--------------|-----------|--------------|--------------|
| 児童質問紙 | 80.1(0.4) | — | 83.8(1.2) | 87.2(1.2) |
| 学校質問紙 | 97.1(0.2) | 97.6(0.9) | 99.4(1.0) | 98.1(0.7) |
| 乖離 | -17.0<-17.2> | — | -15.6<-15.8> | -10.9<-11.4> |

| 中学校 | H26 | H27 | H28 | H29 |
|-------|--------------|-----------|--------------|--------------|
| 生徒質問紙 | 74.0(-0.1) | — | 79.6(1.6) | 82.2(1.8) |
| 学校質問紙 | 96.9(0.4) | 99.4(3.6) | 98.8(1.6) | 96.8(1.3) |
| 乖離 | -22.9<-22.4> | — | -19.2<-19.2> | -14.6<-15.1> |

※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。
 ※「乖離」の数値は、児童生徒質問紙-学校質問紙。なお、< >の数値は、全国の乖離の値を示す。

平成 29 年度下半期の重点取組案について

- 1 市町（13 市町）への支援 ※該当市町については、別途御連絡いたします。
 - ・平成 29 年度全国学調の平均正答率（4 教科合計）が全国平均より 10 ポイント以上低かった市町（小学校、中学校に区分）に、以下の重点支援を行います。
 - （1）教育長と協議し、市町の課題に応じた年度後半の改善具体策を共有
 - （2）小学校（113 校）を県の指導主事等が市町指導主事と訪問し、市町と小学校の課題に応じた改善策を提示。年度後半の実施内容を確認し、取組を支援（詳細は下記 2）
 - （3）市町の学力向上検討会議等に参加

- 2 小学校（113 校）への重点支援
 - ・平成 29 年度全国学調の全国平均と第 1 回みえスタディ・チェックの県平均の両方を下回った学校に対して、学校別に以下の項目で具体的課題を把握します。
 - 平成 26 年度から 29 年度までの全国学調結果の経年変化
 - ・教科調査（平均正答率と平均無解答率の全国平均との差）
 - ・児童質問紙（TV 視聴時間、スマホ使用時間、学習時間、復習、めあて・振り返り 等）
 - ・学校質問紙（めあて・振り返り、校長の見回り、全国学調の活用、子どもの考えが深まる発問や指導、家庭学習の働きかけ 等）
 - 平成 27 年度、28 年度の県の調査
 - ・全国学調、みえスタディ・チェックの再活用 ・全国学調の自校採点実施状況
 - ・学-Viva セット等の活用状況
 - ・授業改善サイクル支援ネット活用状況（平成 29 年度）
 - ・市町教委とともに 10 月と 1 月に学校を訪問します。必要に応じて、3 回目の訪問等県としての更なる支援を行います。
 - ①学校訪問その 1（～10 月中旬）
 - ・校長の課題認識と今後の取組内容を聴取し、県の分析結果と改善方を提示
 - ・校長、市町教委、県教委で課題と改善方策、年度後半の取組スケジュールを確認
 - ・授業を参観し、授業者等を指導・助言
 - ②学校訪問その 2（～1 月）
 - ・10 月以降の取組結果と課題の改善状況を確認
 - ・5 年生への 4 月までの具体的対応を確認（みえスタディ・チェックから見えた課題（1 回目と 2 回目）の改善、全国学調やワークシートの活用、補充学習など）
 - ・授業を参観し、授業者等を指導

- 3 今後、更に分析・検証を行う項目（～9 月末までに）
 - （1）全国学調の分析
 - ・経年的に課題のある項目、算数（「割合」「図形」）、国語（「引用したり要約したりして書くこと」「根拠に基づいて自分の考えを書くこと」）について分析を進めます。
 - 各設問において、解答類型から見た子どもの解答状況を経年比較することにより、どの学年においてつまづきがあるかを明らかにします。
 - 正答率が高い学校の効果的な取組を、学校質問紙調査と学力のクロス分析や聞き取りにより明らかにします。

- ・家庭における学習時間や自主的な読書時間が長い学校の効果的な取組を、児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査のクロス分析や聞き取りにより明らかにします。
- ・国語、算数における市町別平均正答率の経年変化を確認します。
- ・学力と相関のある取組について、全国と三重県の相違を確認します。
- ・分析結果の全体は10月末に報告書として公表します。

(2) これまでの取組の検証

- ・下記の取組と各学校の平均正答率のクロス分析、学校訪問による聞き取りにより、これまでの取組を検証します。
- ※「全国学調の活用」「ワークシートの活用」「めあて・振り返り」「校長の授業の見回り」「校内研修の推進」「自校採点の取組」「実践推進校における少人数指導の取組」

4 教員の一層の授業改善

(1) 各学校での校長のリーダーシップによる取組（3月まで随時）

- ・小中学校校長会と特に小学校での組織的取組、生活習慣・学習習慣・読書習慣に係る課題を共有します。
- ・各学校での「校長の授業の見回り」が教員の授業改善、力量アップに繋がるよう、効果的な取組を働きかけます。具体的には昨年度、校長会が策定した「授業参観シート」（学習規律、めあて、発問・指示、板書、まとめ、振り返りなど授業の場面ごとの具体的な視点をまとめたもの）の有効活用、1時限を通じた授業観察、早期に授業者へ具体的アドバイスを実施すること、などを働きかけます。
- ・児童生徒のつまづきを学校全体で共有し、各学年での学習の積み上げを促進します。
- ・これらについて、地域別校長会でも共有します。

(2) 教員研修による更なる意識の向上（～1月）

- ・総合教育センターが実施する集合研修や初任者・経験6年・経験11年の授業実践研修（少人数グループによる校種別・教科別授業研究会）などの機会を捉え、全国学調の活用、本年度の課題、改善方策、ワークシートを活用した授業づくり等をわかりやすく説明します。

(3) 国の調査官による授業改善研修会の実施（～1月）

- ・本県の課題も踏まえつつ、国の調査官による研修会を下記のとおり実施します。

| | | |
|--------|--------------|-------------|
| 10月31日 | 中学校数学習熟度（2年） | 紀北町立紀北中学校 |
| 11月27日 | 小学校算数習熟度（5年） | 名張市立錦生赤目小学校 |
| 11月29日 | 小学校理科TT（5年） | 松阪市立山室山小学校 |
| 12月5日 | 中学校国語（2年） | 鈴鹿市立天栄中学校 |
| 12月7日 | 小学校算数習熟度（6年） | 川越町立川越南小学校 |
| 12月8日 | 小学校算数TT（5年） | 志摩市立志摩小学校 |
| 1月22日 | 小学校国語TT（5年） | 亀山市立亀山東小学校 |

5 家庭学習の支援（～10月）

- ・全国に比べ、継続的に家庭学習の時間が少ない中で、教員の負担を増加させずに児童が家庭学習に取り組めるよう、自分の力で解けるヒントも入ったワークシート（家庭学習用・学-Vivaセット）を作成・配付し、小学校での計画的活用を促進します。

6 家庭・地域と一体となって学力を育む取組

(1) みえの学力向上県民運動「チラシ」の配布（～9月末）

- ・三重の子どもたちの学習習慣や基本的な生活習慣、読書習慣の課題とともに、「最後までやり遂げてうれしかったことがある」、「失敗を恐れず挑戦する」、「よいところがある」など全国よりも高いデータも示した「チラシ」を作成し配布します。

(2) 地域未来塾等の取組（～1月）

- ・家庭状況により、家庭での学習が難しい子どもたちのために、地域未来塾等の効果的な取組を市町に紹介するなど、市町の取組が進むよう支援します。

7 市町教育委員会と連携した取組の推進

- ・以下の会議等で、市町教育委員会と危機感を共有して、適切な役割分担のもと上記1～6の取組を進めます。

(1) 10月6日 平成29年度第2回学力向上推進会議（市町教委指導主事）

市町教育委員会と教科の課題を共有し、年度後半の県と市町が連携した改善具体策を確認

(2) 11月13日～11月20日 平成29年度第3回市町教育長会議（地域開催）

11月13日 津・松阪・伊賀、南勢志摩

11月14日 東紀州

11月20日 北勢

